

授業 科目名	【G】	日本法制史Ⅰ	区 分	開講年次	【G】3	単位数	【G】2	
	【H】	日本法制史Ⅰ			【H】3		【H】2	
	【I】	日本法制史Ⅰ	その他参照		【I】3		【I】2	
科目区分	専門科目：【G・H・I】教科及び教科の指導法に関する科目（中社・地歴・－・－）							
授業形態	対面授業							
担当形態	単 独	【G】 教員の免許状取得のための（中社選択・地歴必修・－・－）科目					【H】 教員の免許状取得のための（中社選択・地歴必修・－・－）科目	
		教科に関する専門的事項：「日本史・外国史」（中一種免社会） 「日本史」（高一種免地歴）						
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブ タイトル	基礎から学ぶ古代・中世日本の法制度				担当者	池田 卓也		
授業概要	【概要】	本授業は、古代・中世日本の歴史について、法制度を中心にみていく授業です。授業では、各時代の概要について踏まえたうえで、現代の私たちの社会・生活とのつながりも意識しながら、関連するテーマ・用語や史料を取りあげて解説します。なお、履修者の学修状況その他の理由により、授業計画等を変更する場合があります。あらかじめご承知置きください。						
	【到達目標】	1. 古代・中世日本の法制度に関する基礎的な知識を修得し、その概要を説明できる。 2. 古代・中世日本の法制度に関する基本用語を理解し、的確に使用できる。 3. 古代・中世日本の法制度への理解を深めることで、現行の法制度を相対的に捉えられるようになる。 4. 過去という「異文化」体験を通じて、異なる意見や価値観に対する寛容さを身につけ、他者を尊重・理解できる。						
履修条件	特にありません。							
アクティブ ラーニング の方法	【○】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【○】	双方向アンケート	【－】	グループワーク	【－】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎（よく当てはまる）						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	－（当てはまらない）						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	－（当てはまらない）						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	○（やや当てはまる）						
他科目との関	必須ではありませんが、「歴史学概論」・「日本史概論」を履修していることが望ましく、また本科目の履修後に「日本法制史Ⅱ」・「特殊講義(日本政治外交史)」(Hカリキュラムでは「専門講義(日本政治外交史)」)を履修すると、さらに理解が深まります。							
教科書	特に指定しません。必要に応じて資料を配付します(Google Classroomを利用)。							
参考書	・岩谷十郎・松園潤一郎・高田久実[編著]『よくわかる日本法制史』(ミネルヴァ書房、2025年) ISBN 978-4-623-09619-0 ・出口雄一・神野 潔・十川陽一・山本英貴[編著]『概説 日本法制史』[第2版](弘文堂、2023年) ISBN 978-4-335-35954-5 ・高谷知佳・小石川裕介[編著]『日本法史から何がみえるか：法と秩序の歴史を学ぶ』(有斐閣、2018年) ISBN 978-4-641-12597-1 ・佐藤 信・五味文彦・高埜利彦・鈴木 淳ほか『高校日本史』(文部科学省検定済教科書；日探706)(山川出版社、2023年) ISBN 978-4-634-70122-9 その他、必要に応じて紹介します。							
評価方法	「授業実時数の3分の2以上の出席者」を評価対象として、以下の方法で評価します。 ・授業内試験 50% ※履修者数次第では定期試験に変更して実施します。 ・平常点(課題等を含む) 50% ※responを適宜利用します。							
フィードバック 方法	講義内容については適宜質問を受け付け、課題については授業時に講評を行って、学修内容の深化を促します。							
評価基準	積極的な授業への参加・節度ある授業態度を基本に、以下の評価基準で評価します。 S: 授業内容を十分に理解し、きわめて優秀な成績をおさめている A: 授業内容を概ね理解し、優秀な成績をおさめている B: 授業内容を部分的に理解している C: 授業内容を最低限理解している D: 授業内容をほとんど理解していない E: 授業内容を理解していない F: 「授業実時数の3分の2未満の出席者」である、未提出の課題が多い、授業内試験を欠席する、などの理由により評価不能である							

授 業 科目名	【G】	日本法制史 I	区 分	開講年次	【G】3	単位数	【G】2
	【H】	日本法制史 I			【H】3		【H】2
	【I】	日本法制史 I	その他参照		【I】3		【I】2
授業回数	授業内容						
1	イントロダクション／「法制史」とは？ 予習： 日本古代・中世史の法制度に関わる既習内容を列挙する。(2時間) 復習： 「法制史」の位置づけや研究手法、時代区分について整理する。(2時間)						
2	日本古代史概観 予習： 日本古代史の大まかな流れについて既習内容を確認する。(2時間) 復習： 「古代社会の特質」を核として授業内容を整理する。(2時間)						
3	ヤマト政権と政治制度 予習： ヤマト政権の政治動向について既習内容を確認する。(2時間) 復習： ヤマト政権の政治組織について整理する。(2時間)						
4	律令国家の統治機構 予習： 律令国家の形成と展開について既習内容を確認する。(2時間) 復習： 律令国家の統治機構について整理する。(2時間)						
5	律令国家の法と裁判 予習： 律令について既習内容を確認する。(2時間) 復習： 律令国家の法と裁判について整理する。(2時間)						
6	律令国家の変容 予習： 平安時代初期の政治動向について既習内容を確認する。(2時間) 復習： 令外官・格式・明法道について整理する。(2時間)						
7	宮廷貴族社会の政治制度 予習： 貴族政治の展開について既習内容を確認する。(2時間) 復習： 「政と定」・古記録・儀式書について整理する。(2時間)						
8	日本中世史概観 予習： 日本中世史の大まかな流れについて既習内容を確認する。(2時間) 復習： 「中世社会の特質」を核として授業内容を整理する。(2時間)						
9	院政と平氏政権 予習： 院政・平氏政権の形成と展開について既習内容を確認する。(2時間) 復習： 院政期の社会や「家格」について整理する。(2時間)						
10	荘園の発達 予習： 荘園について既習内容を確認する。(2時間) 復習： 初期荘園・免田型荘園・中世荘園について整理する。(2時間)						
11	鎌倉幕府の統治機構と法・裁判 予習： 鎌倉幕府の成立と展開について既習内容を確認する。(2時間) 復習： 鎌倉幕府の統治機構や御成敗式目について整理する。(2時間)						
12	室町幕府の統治機構と法・裁判 予習： 室町幕府の成立と展開について既習内容を確認する。(2時間) 復習： 室町幕府の統治機構や「建武以来追加」について整理する。(2時間)						
13	中世法の世界 予習： 中世日本の権力・社会集団について既習内容を確認する。(2時間) 復習： 中世日本の法圏の分立や法慣習について整理する。(2時間)						
14	戦国大名の登場と分国支配 予習： 戦国時代・戦国大名について既習内容を確認する。(2時間) 復習： 戦国大名の分国支配や分国法について整理する。(2時間)						
15	授業内試験／まとめ ※履修者数次第では、別途、定期試験を実施します。 予習： 第1回～第14回の授業内容について総復習する。(2時間) 復習： 授業内試験を通じて理解が不十分だとわかった内容について						
その他	歴史を知ることは「現在を知ること」でもあります。現代の私たちの社会・生活・価値観との共通点や違いを意識しながら受講し、日本の歴史・文化について、さらには私たち自身について理解を深めてください。そして、ご自身の未来に向けてのヒントを見つけてください。 ※G・H加：【選択必修（ス）】						